

さつまつ狂句 (有明町さつまつ狂句同好会)

試合題 「正直」 稀勢の里 正直な頑張り 花が咲つ 平田 光夫

(評) 期待された日本人角界の新星稀勢の里、どんな苦境にも怯むことなくただ只管に師匠の言葉を信じ続けて幾星霜、そして遂にこの道最高位。同じく郷土の兄弟関取の今後の精進に期待。

席題 「頭」 吾が頭 ちんちん禿も 広るけなつ 丸目 南兵衛

(評) 歳を重ねて八十余年、戦中戦後の千変万化の世相をくぐり、これに耐え抜いて迎えた老後、気が付けば頭髪の面積が予想以上に減少。代わって無毛地帯が大幅進出した。懸念高まる向後。

兼題 「受験」 受験時期 諭吉つ準備こ方て 苛されつ 小蓬原 忠則

(評) 「諭吉」と言えば「一万円札」のこと。どこのご家庭でも子または孫の受験時期に入ると、その合否に関わらず、特に爺婆の財布の紐は熨斗袋の準備に慌てふためく。祈サクラサク。

試合題 「光つ」 新社員 光つ来たとい 直き退社 稲付 通夫

(評) 歴とした企業などによく見掛けられる社会事象。希望と誇りの中に、そして大きな期待を背負って就業するが、間もなくお暇乞いとか。事情不詳のまま詠み込み、時事吟としても妙。

席題 「餅」 孫と三毛 天井の餅は餅を小さく丸めて榎木の枝に挿し、天井のす

(評) 「三毛」は三毛猫のこと。繭の餅は餅を小さく丸めて榎木の枝に挿し、天井のすき間に差し込む。昔養蚕農家での慣習の一つだが、その餅の争奪肉弾戦。天井裏の保有乾燥粉扱は大笑い。

短歌 (松山南船短歌会)

彼岸花の葉群れあちこち息付きぬ東京は雪降ると夜のFAX  
明日からはみ堂に読経なさねばと腹式呼吸に声をならさむ  
黄金にキンモクセイのこぼれ敷く退院の夫を祝うごとくに  
男の孫の三ヶ月近くの写真届くこは病室クリスマス近し  
申年の梅は宝よ亡き母が還り来ませり梅干す両手に  
ひよっとして帰り来るかも隙間あけわずかな望み託しながら  
のびやかに大葉広げしつわぶきは茎をのばして鮮やかに咲く  
朝参り夫を慕いし先客の二本のお香まだ燃え尽きず  
さざんかの桃色とらえし吾がまなこ思わず伸ばし両手に包む  
豌豆が芽立ちすすく育みて支柱はやくと手招きするがに

畑 美佐子  
前原 恭  
野口 順子  
石橋 道子  
川添八重子  
中島 昭  
吉元ミチ子  
大迫 鈴子  
藤田ミチ子  
山口 カツ

俳句 (ぎんなん俳句会)

連翹や風の奏でるシンフォニー  
風光る夢を詰めこみランドセル  
著我の花雨の雫を身に受けて  
いつの間に落花一片紙コップ  
げんげ田に山の影落つ青々と  
春日差し湯中の肌の白きかな  
吾が影を折れば路傍の萇かな

川上 豊  
目黒 文恵  
北川 雨水  
刀坂由美子  
今井 洋子  
海老原郁子  
和田 洋文

～『志』・季・折・々～

市内の美しい風景や、歴史・文化を感じさせてくれるもの等を写真でご紹介します。読者の皆様からの写真のご提供も、お待ちしております。

【今月の1枚：こいのぼり (泰野地区)】

文芸

Japanese Poem of 31 syllables  
\*Haiku Poem\* Comic Haiku\*